

# はじめて投稿論文を作成する方のために

日本運動器看護学会

## 作成の手引き

この手引きは、本学会誌に初めて投稿する、あるいは論文を書くことにまだ慣れていない皆様の論文作成時の手助けとなるように、査読時によく指摘される内容を注意点としてまとめたものです。

論文は、研究のプロセスや内容を知らない読者に、その研究の目的や方法、成果等をわかりやすく伝えることが使命です。皆様の研究成果を、少しでも多くの人々に伝えられますように、原稿作成時の参考にして頂ければ幸いです。

### 1. 論文作成の基本的事項

#### 1) 論文の体裁

##### (1) 論文を構成する各項目についての確認点

論文にまとめるときに注意して頂きたい点を、構成する項目と順序にしたがって以下に提示しました。論文の種類や書式、文献の記載方法等については投稿規定を参照ください。

##### i. 論文タイトル

タイトルにキーワードを含んでいるか？

結果・考察および結論で述べた内容が、タイトルから読み取れるか？

##### ii. はじめに

この研究に至った経緯、先行研究、研究の意義等、研究の背景を明記しているか？

##### iii. 研究目的

この研究で明らかにする内容と範囲を明確に示しているか？

##### iv. 研究方法

研究対象、対象の選び方と特性、研究期間、方法（面接、観察、質問紙調査など）、分析方法などを明記しているか？

調査研究の場合、質問紙（測定用具）はどのように選択したか、また自作の場合は、どのように作成したか？

自作の場合は、質問紙の妥当性（調べたいことについて回答が得られるか）、信頼性（同じ条件でくり返し調査しても、再現可能かなど）について、事前に検討したか？検討している場合（例え

ばプレテスト）、それを記述しているか？

量的研究の場合、分析方法に使用した統計ソフト（Version）および統計方法を明記しているか？

質的研究では、面接、参加観察などの方法や具体的な調査の方法を示しているか？

例：ICレコーダーに録音して逐語録を作成し、カテゴリー化した。など

倫理的配慮について明記しているか？（下記参照）

研究目的や参加依頼の説明、承諾の取り方など、どのように倫理的な配慮をしたか、また、倫理委員会による承認を得た場合は、そのことを明記しているか？

（人を対象とした研究では、実験研究のみならず、すべての研究において倫理的な手続きがどのように行われているかを必ず書いてください。）

#### v. 結果

研究方法に沿った結果の示し方をしているか。

例）有効、無効と結果に書くのみではなく、統計処理の結果を数値で示す。

質的検討を実施した場合は、患者様の生のデータを示して検討する。

結果は順序よく整理して提示しているか。

#### vi. 考察

考察は結果に基づいて順序よく述べているか。

看護への示唆、すなわちこの結果を看護にどう生かすか、どう実施していくのかを考察から導きだし、記載しているか。

実践研究等では、実施した方法と他との比較において、良かった点、悪かった点との照合は？

#### vii. 結論・まとめ研究の限界

・今回の研究目的に対する結論を示す。

・今回の研究の限界および今後の課題を示す。

### 2) 論理的に正しい文章にするために

論文は、筋道だった文章、話の展開が「命」です。論理的に正しい文にするために、書いた文章のチェック、話の筋道のチェックを以下の注意点に基づいて行いましょう。

#### (1) 文章のチェックポイント

i. 主語と述語が明確で文法上正確な文になっているか？

ii. 句読点の位置によって意味が異なって受け取れないか？

- iii. 文章は、適度な長さで誤解が生じないか？  
長文になるほど意味がわかりにくく、様々に解釈される文となるので、可能な限り、短めにした方がいい。
- iv. 結果の記述にあたっては、具体的、客観的に表現しているか？
- v. 考察は研究結果に基づいて展開し、結果や引用した文献以外の内容に飛躍していないか？
- vi. 学術用語を適切に用いているか？

(2) 論文の一貫性

・話の筋道（論旨）に一貫性があるかどうかを提出前にご確認ください。

例：

- タイトル：研究内容を明解に言い表しているか？
- 研究目的：タイトルに示したキーワードと研究で明らかにすることに不一致はないか？
- 研究方法：目的にあった対象，方法が選ばれているか？  
対象者数は適切か？  
研究の手続きは適切か？
- 結果・考察：結果が具体的にわかりやすく示されているか？  
結果に基づいて考察が記述されているか？  
考察では文献を活用しているか？

2. 図表について

1) 表題のつけ方

- (1) 図の表題：表題の頭に通し番号を付し、図の下に記す。

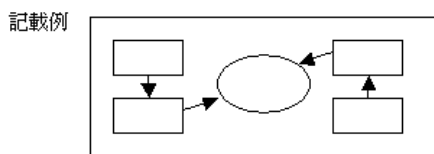


図1. ☆★☆☆の効果

- (2) 表の表題：表題の頭に通し番号を付し、表の上に記す。  
罫線は横罫のみを記す。

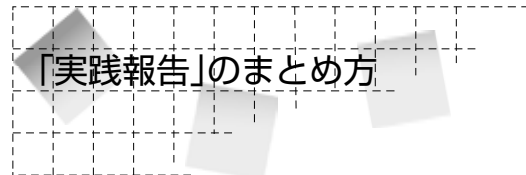
記載例 表2. ◇◇◇前後の平均値と標準偏差 n=76

	平均値	標準偏差	
◇◇◇前	18.5	.86	**
◇◇◇後	12.9	1.03	

\*\* P<.01

3. 引用文献・参考文献

投稿規定にある文献記載の方法をご参照ください。



「実践報告」は、近年、保健医療福祉関係の研究会誌等で多く取り上げられるようになっている論文の種類です。一方、「研究論文」に区分される論文との違いが難しい側面もあります。

ここでは、「実践報告」を投稿する際の参考にして頂くため、「実践報告」と「研究論文」との違いや共通点、論文としてまとめる際の留意点などをお示し致します。

1. 「実践報告」を論文として公表するための要件

「実践報告」とは、実践してきたことを整理しまとめたもののことです。教育や福祉など多くの実践分野で広く取り組まれています。実践してきたものを整理してまとめる目的は、実践経過や結果を詳細に評価し、そこから得たものや課題を確認し、実践に活かしていくことです。実践に活かしていくための取り組みの範囲は、実践者自身の自己評価や学習、ケアチームでの経験の共有や実践の評価などがあり、これらの場合の「実践報告」の内容やまとめ方は、それぞれの範囲と目標に応じて様々でしょう。

しかし、「実践報告」を論文と研究会誌等で公表する場合は、「実践報告」の内容やまとめ方において一定の条件が伴います。日本運動器看護学会誌で公表する「実践報告」は、運動器看護の発展に寄与し、会員の参考になるものです。つまり、公表する「実践報告」の内容は、これまでの運動器看護の援助方法では困難な事例へ新たな方法の試みをして成果が見られた実践など、これまでに報告されていないものであることが条件です。例えば、運動器看護領域で標準的な実践をまとめ、わかったことなどを整理したものは、前述したように報告者自身の学習などの意味はありますが、運動器看護の発展に寄与するものには位置づけられないからです。

もう一つの条件は、報告者以外の読者が実践の内容、経過、結果、考察を理解でき、信頼できる論文であることです。実践報告の目的から、方法、結果、考察まで、一貫していて矛盾がないこと（論理的一貫性）が求め

られます。読者が公表された「実践報告」を自分達の実践に活用していくためには、その論文を批判的に読み取り、活用の範囲や限界を見極めることができなければならないからです。読者が批判的に読み取れる内容を、筋道をたてて記述しなければなりません。

## 2. 「実践報告」と「研究論文」の共通点と相違点

「実践報告」を論文として公表するための2つの要件、すなわち、これまでに公表されていないものであること、論理的一貫性があることは、「研究論文」にも求められることでもあります。「実践報告」も「研究論文」も、運動器看護の発展に寄与するために論文として公表し、読者に活用して頂くことが目的ですから、そのために必要な条件であり共通なのは当然と言えます（図1）。

では、「実践報告」と「研究論文」の違いはどこにあるのでしょうか。運動器看護の発展に寄与する範囲が異なります。「研究論文」の目的は、結果の一般化、新たな知見の創出ですが、「実践報告」はそこまでは目指していません。「実践報告」の目的は、同様の事例、課題に役立つ実践内容・方法の提示にあります。

「研究論文」は、結果の一般化を目的としていますから、研究結果を得るための方法の妥当性、信頼性が問われます。そのために、研究に取り組む前から、研究課題の焦点化、課題に応じた研究デザインの選択、対象の選定、妥当で信頼できるデータ収集の方法、分析方法などを計画して、それを正確に実施していく必要があります。目的としたデータ収集が第一義的です。

「実践報告」は、データ収集が第一義的ではなく、実際にある課題、事例がスタートです。実践していくための計画はありますが、結果の一般化のための計画とは異なります。例えば、ある問題を抱えた対象群への

看護介入の効果を検証する研究では、介入の効果に影響する条件のコントロールや介入群と非介入群の振り分け、データ収集などが必要です。一方、ある問題を抱えた事例へのこれまでとは異なる看護介入をして効果があつた実践を報告する論文では、課題解決につながる実践をその事例のおかれた現実の中で行うこと自体が重視され、それを詳細に正確に記録しておくことが必要となり、条件を厳密にコントロールすることまでは求められません。先に報告するという意図や計画があつたわけではなく、実践が先で、効果がありこれまでに報告されていない実践だったので、実践が終了してから振り返って整理して報告するというのもあるでしょう。

以上のような実践した内容を整理したものを、研究論文としてまとめると矛盾が生じます。「実践報告」には、私達の看護実践に寄与する「研究論文」とは異なる意義がありますので、実践した内容を整理しまとめる場合は、「実践報告」として執筆しましょう。

## 3. 「実践報告」執筆の留意点

ここで、もう一度、日本運動器看護学会誌で公表する実践報告の目的と要件を確認しておきましょう（図2）。目的は、運動器看護の発展に寄与し、会員の参考になるものです。つまり、公表する「実践報告」の内容は、これまでの運動器看護の援助方法では困難な事例へ新たな方法の試みをして成果が見られた実践など、これまでに報告されていないものであることが条件です。もう一つの条件は、報告者以外の読者が実践の内容、経過、結果、考察を理解でき、信頼できる論文であることです。実践報告の目的から、方法、結果、考察まで、一貫していて矛盾がないこと（論理的一貫性）が求め

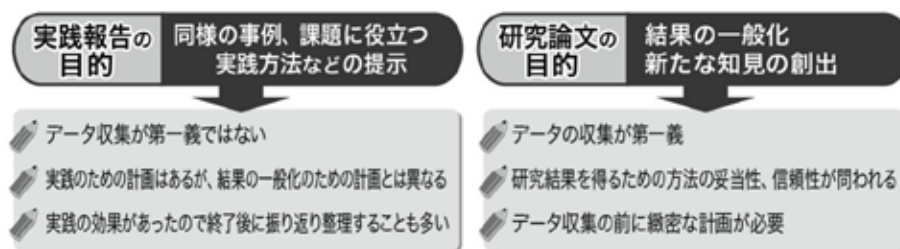


図1 実践報告と研究論文との違い

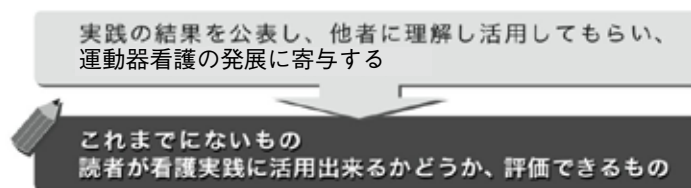


図2 日本運動器看護学会誌における実践報告の目的と要件

られます。読者が公表された「実践報告」を自分達の実践に活用していくためには、その論文を批判的に読み取り、活用の範囲や限界を見極めることができなければならないからです。読者が批判的に読み取れる内容を、筋道をたてて記述しなければなりません。

以上を踏まえて、実践報告は、以下のような論文構成になるでしょう。実践内容の特徴によっては、項目立てタイトルを工夫したり、増やしたりすることが必要になるかもしれません。いずれにしても、「実践報告」公表の目的は、同様の事例、課題に役立つ実践内容・方法の提示ですから、事例や課題の内容、実践の内容やその経過と結果を読者に理解できるよう、まず事実として正確にわかりやすく示すことが重要です。実践の評価およびそこから考えた事柄は、考察で述べましょう。また、看護実践は実際には様々なことを複合的に用いるのですが、それらを全て記述するのではなく、今回の実践報告の目的としていることを選択して記述する必要があります。

○はじめに：

事例や課題に対する看護の状況やその看護実践に取り組む意義

事例や課題に対するこれまでの文献の検討

今回の実践報告の目的、など

○事例や課題の概要：

どのような事例か、取り上げている課題の所在を明確に示す

行われた実践に関係する条件の説明（環境、ケア体制など）

○倫理的配慮：

実践自体は、対象者への看護サービスであり、サービス向上のための取り組みではあるが、その経過や結果の公表にあたっての説明と承諾、プライバシーの保護などをどのように行ったのか

○方法または「・・・への看護の方法」：

実践をだれが、いつ、どのように行ったのかなど読者が同じ方法でできるように記述する。看護の目標や方法などを示す場合もある。

○結果または「・・・看護の実際（経過と結果）」：

研究論文では、結果に該当する論文の核の部分であり、実践の結果得られた結果（事実）を正確に記述する。図や表を使うなどわかりやすくする。

○考察：

今回の結果がえられた理由や意味、他の文献との比較  
今回の結果を実践にどのように活用できるか、

研究への示唆や課題は何か、など

(○おわりに：結論)

○文献：

投稿規定に合わせる

論文作成する場合は、まず、長くなってもよいので、できるだけ具体的に詳細に記述しましょう。その後で、必要のないところを削除する、表現を工夫するなどして、投稿規定の範囲に短くしていくとよいでしょう。なお、初めて論文を執筆される場合には、論文の構成、そこでどんな内容が記述されているかなど、「実践報告」に区分されている既存の論文を参考にすることが有用です。運動器看護学会誌に掲載されている実践報告の論文を参考にしてください。

編集委員会では、日本運動器看護学会学術集会で発表した一般演題を、論文として学会誌に投稿して頂くために、第8回学術集会から研究論文セミナーおよび研究相談室を設けています。ここでは、第9回学術集会研究論文セミナー「実践報告のまとめ方」を再構成しました。

## 投稿論文の査読コメント別解決方法 (研究報告・実践報告)

研究には、研究計画をたて、研究をして、それを論文にまとめるというプロセスがあります。論文を書くというのは、最終プロセスなので、最初の2つの段階である研究計画・データ収集・分析がしっかりしていることが大切であるという前提のもと、このページを参考にしてください。

研究には、原著、研究報告、実践報告などの分類があります。今回は、日本運動器看護学会誌への投稿が多い、研究報告と実践報告に焦点を当てて説明します。

論文を書く目的は、自分たちがやってきた研究をまとめるだけでなく、その成果を他の人と共有することにあります。他の人と共有することで、ひとつの研究成果が、様々な臨床現場で活用され、よりエビデンスのある看護実践が可能になります。

論文を構成する項目は、7項目あります。例えば、虹は7色が、独自の色を出し、すべてが集まって7色のきれいな、一つの作品（虹）になります。研究論文もその構成する7項目が規定にそって過不足なく記述されていくことが重要です（図1）。

**1. タイトル**

目的で使用しているキーワードを含んで表現します。（図2）。

**2. はじめに**

この研究に至った経緯、先行研究、研究の意義などの研究の背景を簡潔に書きます。

### 3. 研究目的

この研究で明らかにする内容と範囲を明確に、具体的に示します。対象や状況を“具体的に”表現することがポイントです。また、用語の定義をすると良いです(図3)。

### 4. 研究方法

対象、期間、データ収集方法、データ分析方法を具体的に書き、倫理的配慮を明記します。

対象には、年齢、性別、疾患などの対象の特性を示します(図4)。

## 論文を構成する7項目



図1

### 研究目的

股関節の手術を受けた患者が経験していることを明らかにする。

初めて人工股関節全置換術を受けた患者が退院後に経験した困難を明らかにする。

図2

### 研究方法

#### 1. 研究対象

2010年4月から2011年3月の間に初めて人工股関節全置換術を受け、本研究の主旨に賛同し、研究参加の承諾が得られた患者。

関節リウマチの患者および退院先が介護施設等の患者は対象外とした。

図3

データ収集方法には、何のデータをどのように集めたかを示します(図5)。

データ分析方法には、どのように分析したのかを示します(図6)。

### 5. 結果

結果の内容を書き出す前に、対象の背景や概要を書くとその後に書かれている結果を理解しやすくなります。(図7)。

一番大切なことは、結果のみ、つまり、研究で明らかになった事実のみを目的に沿って、客観的に書くこ

### 研究方法

2. 調査期間:2010年4月~2012年3月

3. データ収集:データ収集は半構造化面接法により行った。面接は、退院後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月の外来受診の際に行った。面接内容は対象者の許可を得てICレコーダーで録音した。

4. 面接内容:「退院してから、苦しいと思った経験、悩んだ経験、難しいと感じた経験を教えてください。」

図4

### 研究方法

#### 5. データ分析

データ分析には、内容分析の手法を用いた。録音した面接内容より逐語録を作成した。分析の記録単位は、1センテンスを1記述単位、協力者1名分の面接内容を1記録単位とした。

作成した逐語録を共同研究者〇名で精読し、退院後の困難に関する記述を抽出、意味内容の類似性によりカテゴリ化し、内容を示すカテゴリ名を命名した。

更に〇名の共同研究者によりカテゴリの妥当性を検討した。

図5

### 結果

#### 1. 対象者の背景

調査期間中に人工股関節全置換術を受け、退院した患者は56名であった。そのうち、研究協力への同意が得られた患者、男性5名、女性17名を調査対象とした。

対象者年齢は、55~60歳が2名、61歳~65歳が8名、66歳~70歳が7名、71歳~75歳が76歳~80歳が3名、81歳以上が2名であった。家族構成は……(略)で、7名は現在も職業を継続していた。

図6

## 結果

目的に沿って記述する

### 2. 人工股関節全置換術を受けた患者が退院後に経験していた困難

分析の結果、抽出された総記述数は186センテンスあり、23サブカテゴリ、8カテゴリを形成した。人工股関節全置換術を受けた患者が退院後に経験していた困難を示す8カテゴリは、[〇〇〇の困難]、[〇〇〇〇の困難]、[〇〇の困難]・・・[〇〇の困難]、[〇〇〇の苦痛]、[〇〇〇への不安] [家族の優しさの再確認]であった。

図 7

## 結論 まとめ

目的に対する結論

人工股関節全置換術を受ける患者には、退院前から退院後の生活がイメージできるような指導が必要である。

1. 初めて人工股関節全置換術を受けた患者の退院後の困難な経験は、[〇〇〇の困難]、[〇〇〇〇の困難]、[〇〇の困難]・・・[〇〇の困難]、[〇〇の苦痛]、6つのカテゴリに分類された。
2. 初めて人工股関節全置換術を受ける患者には、退院前に[〇〇]、[〇〇〇]、[〇〇]、・・・[〇〇〇〇]についての指導をしておく必要性が示唆された。

図 8

とです。研究をしている段階で考えたこと、気付いたことを書きたくなりますが、考察を交えず、この研究で明らかになった事実だけを示すことがポイントです。

## 6. 考察

結果で記述したことについて、考察することを示すことがポイントです。考察したい結果が全て記述されているか確認することが必要です。また、飛躍しすぎた考察、推測の域を超えない考察、先行研究を引用して否定する考察になっていないか確認しましょう。

## 7. 結論・まとめ

今回の研究目的に対する結論を書きます。この研究で明らかになった範囲を超えて、抽象的に大きく書きすぎないことがポイントです（図8）。

## 8. その他

引用文献の記載方法は、記載内容は、投稿する雑誌等により異なります。文献表記の方法も投稿規定を確認して記載することが必要です。